

**児童・生徒の現状・課題**

・進んで、できるようになるまで学習する習慣が定着しておらず、基礎的な知識が不足している。  
 ・授業内での学習活動に前向きに取り組むことはできるが、自分の思考を深めたり、自己に合わせて学び方を調整したりすることが苦手な生徒が多い。



**学び続ける力を育むための重点目標**

○生徒自身が自ら学びを進めるという意識を高め、基礎基本の定着や思考を深める話し合い活動に粘り強く取り組めるようにする。



**具体的な手だて①**

授業の最初に本時の目標を提示し、学習の見通しを持たせるとともに、目標を達成できたか振り返る時間を設ける。

**具体的な手だて②**

各単元、各題材の中で生徒自身が学習の課題や学習の方法を選んで学びを深める時間を確保する。

**具体的な手だて③**

学期ごとに校内で研究授業を行い、1つの授業を全員で観察して意見交換を行うことによって、互いの授業力の向上を図る。



**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・校内研究の Classroom を作成し、協議内容を蓄積して見返せるようにしたり、外部の研修で学んできたことを共有したりできるようにする。
- ・短時間でもお互いの授業を見る習慣をつける。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	70.8	75.0	
②問題や課題に取り組んでも、上手いかわからない時は、上手いように、違うやり方を試したり、調べたりして粘り強く取り組んでいる。	81.1	85.0	

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	50	60	
②授業では、学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、児童・生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている。	81.2	85.0	

**総括(5月)** 昨年度の MNE 調査で、「学び方を自分で選び、学習を進めることができる」という質問に肯定的に答えている生徒は 79.5%いた。このことから、生徒は主体的に学習に取り組み学習を調整していることがわかるが、全国学力・学習状況調査では全教科の得点が都平均を下回っており、基礎基本の定着がされていないと言える。そこで、教師が授業の中で生徒の選択の場面を増やしたり学習調整力を引き出す学習活動を取り入れたりすることで生徒の主体性を高め、確かな力につなげていくことを目指す必要がある。

**総括(1月)**